



いい家

NPO後悔しない家造りネットワーク
＜いい家塾＞
2008.10.20 Vol.08 (秋号)

巻頭言

塾長 釜中 明

5周年記念第3回シンポジウム

「全力疾走」あっという間の5年間でした。日本の住環境を「何とかせなあかん」と想い続けて40年。私が30年前にシナリオを書いた、人と住まいの関わりを描いた映画「木霊」のリバイバル上映会がきっかけで誕生した《いい家塾》。翌年5月に設立記念第1回シンポジウムを開催し、翌月に第1期生11名を迎えて開塾いたしました。

嬉しいことは数多くありますが、一番は塾生の皆さんから常識のウソに「目から鱗です」と心から喜んでくれることです。来年1月から第11期生を迎えますが修了生は335名を数えます。お手伝いした「いい家造り」も15棟が完成し喜びの輪が大きく広がっています。

11月8日のシンポジウムでは住宅ルネサンスと銘打ち「七曜四季自然派200年住宅」の発表を行います。「衣食足りて住貧を知る」本来は「衣食足りて礼節を知る」ですが、「住」が忘れられてきたのです。日本の住環境は、戦後の粗悪なバラックから未だ開放されていません。それは、30年以下の短命住宅に何の疑問も持たないことです。私はローンが終わる前に

建替えなければならないのは家ではないと言ってきました。そこで「100年住宅で個人経済を豊かにし、良き家族制度を復活する運動」を展開してきたのです。

併せて「住宅基本法」の早期制定を当時の安倍官房長官に提言しました。果たせるかな、住宅基本法は「住生活基本法」として立法され、100年住宅は「200年住宅ビジョン」として実現しました。提言者としてこんな嬉しいことはございません。

これに応えて、「七曜四季自然派200年住宅」として開発し、当日5分の1の模型を展示します。曜とは輝くひかりです。曜日毎のコンセプトで家造りに活かしました。高温多湿、低温乾燥の四季の特徴に「夏涼しく冬暖かい、住み心地のいい家」にしました。

シックハウス要因を全て排除した自然素材で造る健康住宅です。超長寿命の家ですから可変性を可能にし、エネルギーコストの半減にも注力し、何より性能表示をします。わが国の住環境の向上に貢献すべく造りました。当塾の英知と情熱を懸けた自信作です。

このシンポジウムは明るい展望を開く一助になればとの願いから開催いたします。どうかご期待下さい。

5周年記念シンポジウム

七曜四季自然派200住宅 発表会

日 時：平成20年11月8日(土) いい家の日
10:30～17:30 (受付開始：10:00)
会 場：大阪市立住まい情報センター 3階ホール
大阪市北区天神橋6丁目4-20
地下鉄：堺筋線・谷町線「天神橋筋6丁目」駅3番出口より連絡
JR環状線「天満」駅から徒歩7分
参加料：前売り券1,300円(150枚) 当日券1,500円(50枚)
定 員：200名(申込み順)
申込方法：郵便振替 名義「いい家塾」
口座番号00980-2-222227
振込み確認後、入場券を送付します。

左記の要領で開催いたします。
お誘い合わせのうえ、お越し下さい。



3周年シンポジウムの様子

堺市N邸完成

サポーター 山本容子

いい家塾での久しぶりの見学会が行われました。第3期生のNさん4人家族の家です。

このお宅は 壁、天井は下地のままで何もせずに未完成で引渡しされます。施工業者としてはその時点で完成なのですが、正確には「完成直前見学会」でした。

今の塾生の方々、卒業生の方たち合計12人に見学していただきました。

参加の皆さんには まだ引っ越されてないのでクーラーもなく暑い中、プロジェクターによる説明を配られたうちわであおぎながら聞いていただきました。プロジェクターで映すには暗くしないといけないので、窓を布でふさいでいたからです。



このお宅は 二階へ上がる階段を2段上げて床をつくっておられ その2段上げたことによる外部の空間がとても有効につかわれていたり、洗面室からは下着やタオルを入れる引き出し

に使われていました。

敷地面積、建築面積は少ないけど その分よく考えて空間を有効活用されている工夫を見せていただきました。

終わりのほうでは なごやかな雰囲気みなさん質問もいろいろ出てきて、心配な点など聞いておられました。

いろんな家を見ることは ご自分が建てる時に参考になるのですすめです。



千里山の家 地鎮祭

事務局 釜中悠至

10月の気持ちのいいお天気の日千里山での地鎮祭に参列しました。

先月参列させていただいた地鎮祭も天候に恵まれて清々しい気分になりました。

2ヶ月続けて神事に立ち会えるなんて嬉しい限りです。

お施主さまはとても仲の良い3姉妹でその内のお二人が《いい家塾》を受講されました。

地鎮祭には3人揃っての出席です。



今回の神主さんはとても感じの良い方で、地鎮祭を始める前に少し冗談を言って場を和ませてくれたり、お施主様に式の手順を丁寧に説明してくださいました。

た。

地鎮祭とはその土地や家族に由来する神様、あるいは神的な存在の方に現地まで来ていただき工事の安全や天災、そして完成した家やその家族の無病息災を関係者全員でお願いするものです。

何度か地鎮祭に参加しているのですが、《いい家塾》の事務局で勤めるようになり最初に参列した時は手順がわからず何故かドキドキしたのを覚えています。家を建てる時にだけ行うものなので、建築関係の仕事していなければ普通はそんな何回も経験するものではないですね。

今回の地鎮祭も神主さんが祝詞を挙げたり、関係者全員での玉串（榊に紙垂をつけたもの）を捧げたりと、粛々とした儀式が執り行われました。

神様もきっと満足の地鎮祭だったはずですよ。

この地鎮祭の儀式を期に先頭の牽引車は建築士さんから工務店さんへバトンタッチされます。

無事に工事を終えてお施主さまの喜ぶ顔を見るのが今からとても楽しみです。

Eさま、Iさま、Oさま、この度は本当におめでとうございます。

ご夫妻で受講された第3期生の西口さんご夫妻。念願のいい家造りがスタートしました。今般、梶原町森林組合さんと《いい家塾》がタイアップした大黒柱伐採祈願祭の第1号として西口邸が選ばれたのです。当日は高知放送の取材があり「木の国 木の住まいスペシャル」と題して9月28日放送されました。

梶原町伐採祈願紀行

にしぐちみか

8月6日から9日までの4日間、大黒柱伐採祈願に行ってきました。わが家は夏休みも兼ねていて気分はすっかりバケーション。メンバーは大阪から西口“夫と妻”、それからこの夏6歳になる息子、釜中明塾長と山本博工務店社長で棟梁の山本啓二さんの5人です。

現地で温かく迎えてくださったのは森林組合長の中越利茂さんと販売部長の西村寿勝さん。

100%梶原の木で建てられた事務所の2階で素人にもわかるよう森林組合の取り組みの詳細を説明してくださいました。

その間、わが息子はというと……。無垢の木の床に寝ころび、まるでクラゲのように泳ぐ始末。「お行儀悪いじゃない、やめてー！」と注意するのですが、どうやら相当気持ちがいい様子。「見学にきた子供はみんなこうなります」とフォローしてもらったものの、いきなり本能に忠実になられても。でも、実際私も深呼吸を繰り返したくなるくらい木の香りが心地よく、「このと同じ梶原の木でつくる家!」と、思うとわくわくしてきて、新しいおうちの完成が楽しみでなりません。



伐採祈願祭当日は残念ながら雨が降ってしまいましたが、肅々と事は運び、まず三嶋神社の宮司さんがていねいに祝詞をあげてくださり、続いて施主である私たちが、「エイ!エイ!エイ!」と切る真似をし、山本さんが斧を入れ（さすが腰が入って格好よかったです

す)、最後に西村部長が予告したとおりの場所に切り倒し、メキメキと轟音を立てて落ちてゆく様を見た瞬間、「この木が私たちの家にきてくれるんだ」と思うと、感慨深いものがありました。

全員ずぶぬれになりながらも無事に祈願祭が終わり、お宿に帰ると待っていたのはツバメちゃん。負傷したツバメを介抱しているうちに住み着いたという「ツバコ」(息子が命名させてもらいました)は、ものすごく人なつこくて私たちの指に留まったり、頭上を旋回したりして、とてもかわいい出会いに恵まれ心がほっ

こりしました。

さらに、農家民宿「かわい」のお父さん、お母さんのつくってくださるお料理はどれもおいしくて大満足。森林組合長の中越さんや西村部長さん、きさくな町長さんに歓待していただき、梶原は人情味あふれる町でした。



家族内ミーティング(?)では、また機会があれば、自然豊かな梶原に遊びに行きたいねと話しています。

釜中さんをはじめ、お世話になった方々に心から感謝します。ありがとうございました。

西口邸の地鎮祭

サポーター 山本啓二

さわやかな秋晴の日、N様邸の地鎮祭に参列しました。N様は三期塾生さんで、家の見学会や、公開講座にも参加され、大変熱心な御家族です。お住まいの材木は、梶原町森林組合の山の木を使用することになり、「伐採祈願祭」も行われ、大工修業から40年余りの間で初めての体験でした。建てるにあたり、いくつか儀式を行います。地鎮祭、上棟祭、竣工祝、と節目には感謝をし、無事を祈願するという日本らしい行事です。

私は、仕事柄数え切れない程の式典に立ち合ってきましたが、今回のN様の地鎮祭の様子は、特別に神秘的な印象を受けました。当日用意のため1時間前に到着すると、すでに儀式を運営される方3名が待っており、「えらいたいそう!」と思いながら急いで準備しました。式典の用意は3人で手際よく進め、私が今まで見たことのない立派な祭壇が出来上がり、式典が始まりました。一般的には、神主さん1人で手順よく、さっささと神様が目を廻す程の神技で進め、わずか20~30分で終わりというパターンが多いですが、今回は一つ一つが丁寧で魂が入っているという感じで、2時間程かかりました。わずかの椅子しか用意していなかったもので、立っていた方には申し訳ない思いでした。儀式の内容は興味深く、見聞させてもらいましたが、写真を見ていただくと右端に高く立っている品物がありますが、これは下よりコンロ、お釜、その上に樽の



ような容器が設置されており、その中へ参列者1人1人が札押の時お米を3度ずつ入れておりました。(その後、そのお米はどうなる?)

最後に官司様が私共業者に仕事に対する心得をお話され、「無事、竣工引渡しされることを望みます」と述べられ閉式されました。工事のスタートにふさわしい1日でした。

シンポジウム教育力を問う

住居という視点から「賢明な消費者の輩出」を目的に活動している《いい家塾》が新しい1つの試みとしてシンポジウム「教育力を問う」を開催いたします。

いつの時代でも「教える」「学ぶ」ということは人生において欠かせない大事な問題です。

家庭教育、学校教育、社会教育、の3つの教育現場から、それぞれ「熱い心の授業」を行う実践者が体験発表を行います。パネルディスカッションでは社会基礎力をテーマに、今般世間を騒がす問題の本質を追求して対策を考えていきます。是非皆さんも一緒に「教育」の大切さを再確認しに会場まで足をお運び下さい。

開催日時：平成20年12月14日（日）

受付開始11：00 開会11：30～16：00

講演者：原田誉一氏（大阪市立小学校教諭）
比田井和孝氏
（長野県上田情報ビジネス専門学校 就職科主任）
釜中 明（NPO《いい家塾》塾長）

コメンテーター：西口 光一氏（大阪大学教授）

コーディネーター：有田 典代氏
（NPO法人 関西国際交流団体協議会 事務局長）

会場：大阪市立こども文化センター

大阪市西区北堀江4-2-9

地下鉄千日前線・鶴見緑地線「西長堀駅」7番出口すぐ

参加料：前売り券 1200円 当日券 1500円

定員：300名（定員になり次第締め切ります）

申込み：郵便振替 名義「いい家塾」

口座番号 00980-2-222227（振替用紙に、住所、氏名、連絡先、参加人数をご記入の上 お振込み下さい。入金確認後 入場券を送付いたします。）

ご不明な点は《いい家塾》事務局までお問い合わせ下さい。

第11期 受講生募集

来年新春より、第11期が始まります。さらに充実の講座に加え、今回の実習編では「銘木の郷 吉野杉 伐採体験ツアー」を企画しております。

「家を建てる前にまず勉強」きっと満足する内容で新たな受講生の方々をお待ちしております。

お知り合いに、家造りで悩んでおられる方、家造りに興味のある方がおられましたら是非ともご紹介下さい。

会場は大阪市立住まい情報センター

時間は10：30～16：45です。（第3講実習編を除く）

参加ご希望の方は事務局までお問い合わせ下さい。詳しい資料をお送りします。

第1講 基礎編 1月12日（祝日）

- ・土地の重要性・日本の住宅事情・健康住宅の素材
- ・設計の重要性・シックハウス住宅の現状

第2講 専門編 2月22日（日）

- ・構造は何にするか
- ・木造工法の種類
- ・シックハウスの原因
- ・自然の恵み・家具の役割
- ・ライフプラン



10期生の講義風景

第3講 実習編 3月22日（日）

- ・「銘木の郷 吉野杉 伐採体験バスツアー」

第4講 研究編 4月26日（日）

- ・欠陥住宅・シロアリ講座・不動産契約心得
- ・電磁波の恐怖・住まいの防犯・日本住宅の五重苦

第5講 実践編 5月24日（日）

- ・「いい家」の条件・リフォームの心得
- ・後悔しないプラン作り、夢を描く（演習）

※季刊誌「いい家」の郵送費等をカンパしていただける方は 郵便振替 00980-2-222227いい家塾 までお願いいたします

編集後記

本がないと酸欠ならぬ本欠で窒息してしまう。そんな私だけれど、ベストセラーは減速に読まない。

誰もが右向け右で賞賛するものは、まず疑ってかかることにしている。最近の話題で言う「地球温暖化」。確かに温暖化はしているけれども、本当にCO2が原因なの？ と思って詳しく調べてみると、実ははっきりした証明はされていない。

反論すると地球の敵みたいに言われるので専門家は沈黙してきたけれど、今年になって大学の先生たちも本当のことを本に書き出した。あと数年で科学的な決着はつくだろう。

家も同じこと。あんまり「いい話」は疑ってかかった方がいい。最後の最後は、自分の感性次第。

本物を見抜く感性を鍛えましょう。

NPO:後悔しない家造りネットワーク <いい家塾>

発行人:釜中 明 編集人:山岸飛鳥
大阪市天王寺区生玉寺町1-13-6F Tel: 06-6773-3423 Fax: 06-6773-3420
URL: <http://e-iejuku.jp> e-mail: info@e-iejuku.jp